



## 『えひめ、その装いとくらし』の要約

### 序章 装いの文化へのいざない

本章では、装いの文化とは何かを探り、あわせて、本書で紹介する愛媛地域を舞台とした人々の高度経済成長期(昭和30年〔1955年〕～昭和48年〔1973年〕)ころまでの装いと暮らしについて概観した。

### 第1章 生業としての装い

昭和30年以降の高度経済成長は、国民の生活文化に多大な変化をもたらした。本章ではその変化の中において、それぞれの地域で生活する人々の生業としての装いを、「紡ぐ」「染める・織る」「仕立てる」「商う」「支える」の項目に分けて、その時代背景や移り変わりをたどり、人々の思いやくらしとのかかわりを探った。

#### 第1節 装いを生み出す

本節では、昭和の初めから高度経済成長が始まるころまでの時期にかけて、県内各地域で「紡ぐ」「染める・織る」ことを生業としていた人びとから、さまざまな取り組みや移り変わりについて聞き取り、人々の思いやくらしとのかかわりを探った。

「1 紡ぐ」では、西予市野村町の養蚕業と製糸業及び西予市城川町の天蚕(ヤママユの別名)飼育と天蚕糸の生産、さらに西条市の富士紡績壬生川工場におけるスフ製造を取り上げ、くらしとのかかわりを探った。

「2 染める・織る」では、松山市和気の緋糸の絞り染めと松山市西垣生町の緋の機織り、さらに今治市のタオル用糸の先晒し先染めとタオル紋織りを取り上げ、くらしとのかかわりを探った。



図表1-1-1 「装いを生み出す」で取り上げた調査地と調査内容

#### 第2節 装いを商う

本節では「装いを商う」時代背景や県内の移り変わりをたどり、人々の思いやくらしとのかかわりを探った。

「1 仕立てる」では、喜多郡内子町で洋服の仕立て、西条市と大洲市で和服の仕立てをしてきた人の思いを探り、和服の仕立てに使われる鯨尺(江戸時代にできた裁縫用のものさし)の竹材を出荷する大洲市の業者と大洲の竹を材料として竹ざしを製造してきた滋賀県・香川県の業者に話を聞き、そのくらしや思いを探った。

「2 商う」では、松山市中島町野忽那、西予市宇和町で呉服や既成の洋装品を行商により商ってきた人や今治市、松山市、八幡浜市で店舗を構えて商ってきた人に、商いの様子を聞き、その思いやくらしについて探った。

「3 支える」では、松山市、宇和島市の洋裁などの指導者や松山市の湯のし屋、西条市、南宇和郡愛南町での貸衣装屋や宇和島市、松山市のかけはぎ職人に聞き、それぞれのくらしの様子や思いを探った。



図表1-2-1 「装いを商う」で取り上げた調査地と調査内容

## 第2章 くらしの中の装い

高度経済成長は、人々の暮らしに大きな変容をもたらし、装いの文化も著しく変化した。

本章では、昭和初期から高度経済成長期ごろまでの普段の日と特別な日における装いや、装いの変化とともに形を変えていくかぶり物、履物などの生活用品に焦点を当て、激動の昭和を生き抜いた人たちから、聞き取りながらたどった。

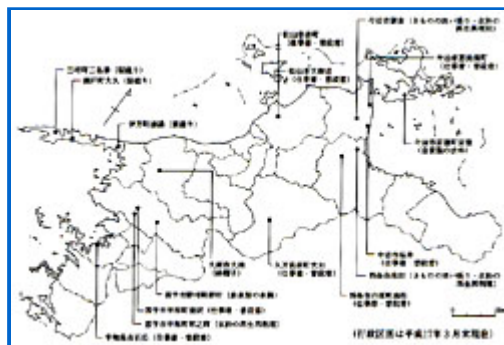
### 第1節 普段の日に

本節では、普段の日の装いを取り上げ、手づくりの衣料を使い切る生活の知恵、ミシンやアイロンのどの補助具の活用、佐田岬半島の裂織りなどについて探りながら、装いの文化とくらしとのかかわりについて、明らかにしようと試みた。

「1 普段着と仕事着」では、「まち」や「むら」の暮らしにみる普段着・仕事着やそれらの移り変わりについて探った。

「2 手づくりのぬくもり」では、家庭で作る衣料やその再生・再利用について探るとともに、ミシンやアイロン、洗濯機、洗剤などの変遷について取り上げた。

「3 裂織りを訪ねて」では、かつて佐田岬半島の家庭で織られ、厳しい段畑仕事や漁などに着用された裂織りについて、暮らしとのかかわりや継承にかける人々の活動、思いなどを探った。



図表2-1-1 「普段の日に」で取り上げた調査地と調査内容

### 第2節 特別な日に

人はその営みの節目に、普段のくらしとは異なる特別な日を迎えることがある。例えば、年中行事の日、人生儀礼の日、あるいはその他の非日常的な行事に参加する日などである。本節では、高度経済成長期以前を対象に、これら特別な日の行事・儀礼とその装いを明らかにしようと試みた。

「1 季節とともに」では年中行事に焦点を当て、伊予郡砥部町高市地区の正月、越智郡上島町魚島地区の盆、今治市祇園町とその周辺部(総称して鳥生地区)の春祭り、北宇和郡鬼北町清水地区の秋祭りを取り上げ、それぞれの行事と装いについて探った。

「2 人生の節目に」では人生儀礼に焦点を当て、それぞれの儀礼と装いについて探った。人の誕生・成長にかかわる儀礼と婚礼の儀礼については西予市宇和町の宇和盆地一帯と今治市宮窪町宮窪地区を、葬送儀礼につ

いては四国中央市金砂町小川山中之川地区と上浮穴郡久万高原町相の峰を取り上げた。加えて、中之川地区では、人の成長にかかわる儀礼についても触れた。

「3 伝え演じる」では地域の芸能行事に焦点を当て、大洲市肱川町大谷地区の大谷文楽と伊予郡松前町中川原地区の村芝居を取り上げ、それぞれの行事と装いについて探った。



図表2-2-1 「特別な日に」で取り上げた調査地と調査内容

### 第3節 広がる装い

本節では、かぶる、履く、寝る、包む装いについて取り上げる。生活者にとっては、自分で作り使ったわら草履のように思い出深い物があれば、特別な思いもなく使った物もある。そのため専門店の力を借りながら、生活者の話を聞いた。

「1 かぶる」では、今治市の人たちに、かぶり物全般を生活の中でどのように利用したかを聞いた。専門店の立場からは、松山市の帽子専門店の経営者、大洲市の和傘職人に、帽子や和傘の歴史や作り方を探った。

「2 履く」では、愛南町や久万高原町の人たちに、わら草履の作り方や生活のどのような場面でどんな履物を使ったかを尋ね、西条市の履物店では下駄の作り方や、どのような職業の人がどんな履物を使うかを尋ねた。

「3 寝る」では、久万高原町の人たちの布団への思いや暖を取る工夫、西予市で手作りの蚊帳や蚊対策の思い出、松山市の布団専門店での寝具の移り変わりや蚊帳、枕の特色を探った。

「4 包む」では、松前町で生活者の立場から風呂敷やふくさに対する思い出を、四国中央市で風呂敷などの染色に携わった染物店の経営者にその技術や使い方を聞いた。



図表2-3-1 「広がる装い」で取り上げた調査地と調査内容

## 第3章 あのころの装い、そして今

本章では、太平洋戦争をはさんだ昭和10～20年代における装いと高等学校の制服の変遷に焦点をあて、暮らしとのかかわりを探った。さらに、近年の多様化する装いについて概観した。

「1 カーキ色のころ」では、戦前から戦後にかけての窮乏期の社会における人びとの暮らしと装いを世相とのかかわりから探った。

「2 あのころの制服」では、旧制中学校、女学校、商業学校から新制高等学校になった県立学校と旧制女学校から新制高等学校になった松山市内の私立学校を取り上げ、発足時から昭和30年代までの制服を探った。

「3 多様化する装い」では、近年の高等学校の制服事情と昨今の多様化

する装いを世相とのかかわりから概観した。



図表3-1 「カーキ色のころ」で取り上げた調査地と調査内容



図表3-4 制服の調査対象校

Let's enjoy learning!

